

龜甲

十ばかり取もとめ、庭の池に放ち入レ、用の時とり出すに己々が穴をほり、深く隠れ居ければ、人を多く池に入レ、方々搜りまはして、やうく一ツ二ツとり出し、既に殺して與へける、され共病人つゝにはかなくなりしに、その次の日より、龜ども池の汀にことごとく出て、甲をさらしけり、
略○下

〔本草和名^{十六}〕龜^〇甲^〇 一名神屋^{本條} 一名雪龜 一名天龜^{已上二名} 一名衣督卸^{出古} 和名字^{美加女}。

〔運步色葉集^通〕鼈^{カウ}甲^〇

〔大和本草^十〕龜^〇 龜肉ハ食フベカラズ、龜甲、龜板ハ一物ナリ、二物ニアラズ、藥ニ用ユ、古ノ

龜トハ腹ノ板ヲ用ヒ、以荆ヤク、其文ニヨリテ、吉凶ヲ知ル法アリ、今按龜甲ハ石ガメノ腹下ノ版

ヲ用ユベシ、背上ノ甲ヲ不可用、本草又稱敗龜板、龜甲モ龜板モ同物也、大明曰、ト龜小而腹下曾鑽

十遍者、名敗龜版、入藥良、龜ノ背腹上下共ニ甲ト云、然ドモ龜甲ハ即龜板、腹ノ下ノ板ナリ、敗龜板

トハ龜トニ久ク用タル腹下ノ板ヲ云、板モ亦甲ト云、背ノ殼ニハ非ズ、蘇頌曰、殼圓版白者陽龜也、

是殼ハ背ノ甲ナリ、版ハ腹ノ甲ナリ、時珍曰、壓ハ可供ト、殼可入藥、則古者上下甲皆用之、至日華始

用龜板、而後人遂主之矣、今按本草主治ニモ殼ト板トヲワカス、
略○中本邦藥鋪往々以龜背上甲爲

龜甲、今考數書、決可以腹下版爲龜甲也、

〔延喜式^{三十七}〕諸國進年料雜藥

山城國卅二種^略 中 鼈甲一枚^略 中 攝津國卅四種^略 中 鼈甲四枚

〔延喜式^三〕凡年中所用龜甲、摠五十枚爲限、
紀伊國中男作物十七枚、阿波國中男作物十三枚、
但齋

內親王遷入野宮、用料龜甲十三枚、臨時申辨官、仰所出國、送納此官、每月充之、

〔延喜式^五〕齋宮、凡諸國送納調庸、并請受京庫雜物、積貯寮庫、支配雜用、
略○中 龜甲十二枚、
摩

〔塵袋^九〕一信ナキ龜ハ甲ワルト云フ如何、